

「人を大切にする事の第一歩として...」

舞鶴市立青葉中学校 3年 桑原 玄

小学生の頃、クラスである男の子が名前の事で笑われていた。漢字の読み方が少し珍しくて、初めて聞くと少し変わっているように感じる名前だった。周囲に悪気はなかったのかもしれないが、からかわれていたその子はとても困った表情をしていた。その場にいた僕は、何も言えなかった。その事が今でも心に残っている。

僕は今もスマホを持っていないので、SNSなどでのやり取りは経験がない。でも、名前をからかうような言葉がSNSで気軽に投稿されたり、面白がって拡散されたりする事で、本人が深く傷つくケースがあるという事は、大人や周りの話から知った。画面の向こうであっても、そこにいるのは本物の人間だという意識を持たないまま言葉を使う人がいるのは、とても危険な事だと思う。名前というのは、自分では選べない。けれど、親や家族が考えた意味や願いが込められている事が多い。だから、それを軽く扱う事は、その人自身を雑に扱うのと同じ事だと思う。

以前、外国の文化にルーツのある子供が、学校で名前を笑われて悩んでいるという話をテレビで見た事がある。その名前は日本では聞き慣れない響きだったが、親が自分達の文化と願いを込めて名づけた名前だったそうだ。本人はその意味を理解して大切にしていたけれど、周囲に笑われるうちに、自分の名前を恥ずかしいと感じるようになってしまったという。その話を聞いた時、名前を理由に人を評価したりからかったりする事は、文化や家庭背景を否定する行為にも繋がると感じた。

僕の学校でも、英語や社会の授業で色々な国の名前が出てくる事がある。読みにくいと感じる事もあるけれど、逆にカッコいいと感じたり、意味が気になったりする事もある。名前の違いに驚く事はあっても、笑う必要はないと改めて思うようになった。

名前に関するいじめには色々な形がある。わざと漢字を違う読み方で呼んだり、似た音に変えてからかったり、名前の語尾を不自然に伸ばしたりするなど、ふざけた呼び方で笑いを取ろうとする事もある。僕の学年でも、そういう呼び方を繰り返し言われている人はいるが僕は未だ注意できてない。彼は笑って流していたが、雰囲気は良くなかった。

また、あだ名で呼ばないと仲間に入れないような空気が作られたり、本人の望まないあだ名を拒むと「ノリが悪い」などと扱われてしまう事もある。ある友達が、自分の名前と呼んでほしいと伝えた時、周囲のみんながその思いをきちんと受け止め、自然に本来の名前で呼ぶようになった場面を見た事がある。最初は少し照れくさそうだったが、次第に本人の表情も明るくなっていった。その様子を見て、名前を大切にする気持ちは周りにも伝わり、温かい空気を作り出す事ができるのだと感じた。

さらに、名前を略して「○○菌」のように変えたり、苗字や名前の響きから下品な言葉や動物を連想させて笑う事もある。名前を呼ばずに無視する、グループ内で普通の呼び方を禁止して変なルールを作る、卒業アルバムや名簿に勝手にあだ名をふざけて書きこむ、過去に嫌だったあだ名をわざと掘り返す。そういった行為は一つ一つが悪質で、長く心に残る。

僕の周りでも、そうした名前に関わる小さな悪意やからかいが、じわじわと人を傷つけていく場面を見てきた。確かに、珍しい名前に出合った時、驚いたり、上手く読めなかったりする事はある。でも、その時に大事な事は、ふざける事ではなく、どう読めばよいかをたずねたり、その名前に込められた意味を聞いてみたりする姿勢だと思う。

名前を正しく呼ぶ事には、相手を大切にしようとする気持ちが表れる。そこに敬意があり、信頼ができる。だからこそ、名前を軽く扱ったり、からかいの対象にしたりする事は、どんな場面であっても許されない。

これから先、社会に出れば、もっと多くの人と出会い、たくさんの名前に触れる事になる。初めて見る名前や読みにくい名前もきっと出てくる。でも、そんな時こそ、ふざけるのではなく、教えてもらう姿勢を忘れずにいたい。うまく発音できなくても、覚えようとする気持ちが、相手への信頼を作っていくのだと思う。

名前を大切にするという行動は、特別な事ではなく、基本的な人への向き合い方だと思う。だから僕は、ふだんの学校生活の中で、名前を正しく呼び、ふざけず、笑わない事を当たり前のように積み重ねていきたい。目立つ事ではないけれど、そういう気づかいのある空気が少しずつ周囲に広がっていけば良いと願っている。